透析患者におけるビタミンD投与と心房細動発生率には関連がない

長崎腎病院
○橋口純一郎、宮崎健一、李嘉明、原田孝司、舩越哲

【目的】
Vit-D欠乏は、骨代謝の他に心筋などの危険因子になるという多くの報告がある一方で過剰なVit-D投与は心房細動の増加など心臓障害リスクが増大するとの報告もある。今回、血液透析患者に対するVit-D投与と心房細動の関連を調べる。

【方法】
血液透析患者409名の心電図検査を行い、心房細動群（Af）35名と洞調律（SR）374名の2群に分類した。Vit-D投与の有無・投与量・Puls療法の有無・i-PTH値について2群間の有意差の有無を検討した。

【結果】
Af群とSR群の間で、Vit-D投与率（51.4% vs 60.7%, P=0.28）、平均Vit-D投与量（0.90±1.07μ/W vs 0.95±0.95μ/W, P=0.46）、Puls療法施行率（22.9% vs 20.6%, P=0.75）、i-PTH値（125.1±151.8pg/mLvs 101.6±108.9pg/mL, P=0.21）といずれも有意差は認めなかった。

【まとめ】
透析患者におけるビタミンD投与量と心房細動発生率には関連がない。